



2016 年度・国民健康保険料 引き下げ求めて、市と交渉

国保料の引き下げを求める西宮市民の会と党議員団

今年の国民健康保険料が決定する 6 月を前にした 4 月 13 日、国保料の引き下げを求める西宮市民の会は、「繰入金を活かした、目に見える引き下げ」を求め、市と交渉しました。日本共産党市議員団 6 名と、いそみ恵子県会議員も参加しました。

市からは国民健康保険を所管する中尾市民局長、鎌田市民部長、中西国保課長が出席しました。

「兵庫県下で一番高い西宮の国保料を引き下げよ」と 2006 年に発足した「市民の会」と日本共産党市会議員団は、当時署名活動や何度かの市への要請等をおこない、ついに引き下げを実現させました。2008 年度から、保険料抑制のための一般会計からの繰り入れを行わせたのです。

2 億 5 千万円から始まった毎年の繰り入れは、2012 年度には 10 億円にまで増やされましたが (表 2)、「医療費が増加している」などの理由から、保険料率はじりじりと引き上げられました (表 1)。所得 200 万円 4 人家族の例では、2008 年と 2015 年の比較で 26,400 円もの引き上げとなっています。

市との交渉では、①2008 年度の保険料率に戻すこと、②27 億円にものぼる基金を取り崩して、引き下げの財源に充てることを求めました。

27 億円もため込まれた基金は 加入者のために使うべき!

「市民の会」は、①医療給付費総額を過剰に見積もっているために保険料率が上がっているが、多額の剰余金 (収支差引) が生みだされており、結果として引き下げのための繰り入れが有効に活かされていないこと、②剰余金の半分以上が積み立てられる国保財政安定化基金残高が、2008

年度末には 2 億 2 千万円だったものが、2015 年度末には 27 億円にまで膨れ上がっている (表 3) ことを指摘。

基金は被保険者 (加入者) の負担によってため込まれたものであって、これを取り崩して保険料率引き下げに充てるべき、と主張しました。

参加者からも、「2008 年に繰り入れが実現し、保険料が下がった実感があった。最近では繰り入れが 10 億円に増えたのに (2015 年度からは 7 億円) 保険料は下がっていない。生活が苦しい中、ぜひ、下がったと実感できることを求める」等の意見が出されました。

「基金の運用を検討する」 と、市民局長

中尾市民局長からは、「一般会計からの繰り入れで今の保険料率の水準がある」「基金はため込むことが目的ではないので、うまく運用する方法を考えていく必要がある。今後、料率決定までに精査、検討していく」との発言がありました。

日本共産党市会議員団は、この間、議会一般質問で繰り返し保険料の引き下げを求めてきましたが、ひきつづき実現めざして、がんばります。

<表 1 国民健康保険料率 (医療給付費分+後期高齢者支援金分+介護納付金分)>

	2008 年度	2009~2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013~2015 年度
所得割 (%)	10.7	10.7	11	11.2	11.3
均等割 (円)	45,360	45,000	46,680	48,120	48,480
平等割 (円)	25,440	25,440	26,400	26,880	27,360

<表 2 保険料率抑制のための一般会計繰入金>

年度	2008 年度~2011 年度決算	2012~2014 年度	2015 年度
繰入金	毎年 2 億 5000 万円	毎年 10 億円	7 億円

<表 3 国民健康保険財政安定化基金の残高>

(年度末)	2008 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
基金残高 (円)	2 億 2060 万	2 億 7568 万	4 億 6892 万	14 億 9372 万	23 億 2704 万	27 億 240 万

党地方議員、金田峰生国政事務所 所長と政府交渉



4 月 4 日、兵庫県議団はじめ県下の地方議員団が、焦点の保育所待機児童対策や、UR 借り上げ公営住宅問題などで各省庁と交渉しました。堀内照文、こくた恵二衆院議員らも参加しました。